

令和3年度 学校評価・学校関係者評価書

学校名	天満東小学校
-----	--------

1 学校運営の目標・方針

「元気に明るくとも学ぶ子」
自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心をもち 未来をたくましく生きる東っ子の育成

2 本年度の重点目標

1. 学びの 楽しさを知り、積極的に 自分の考えを持ち 学習する子(学ぶ意欲の育成)
2. 自分から進んであいさつができ、人との対話を楽しむ子(コミュニケーション能力の育成)
3. きまりを守り、人となかよくする子(公共心と人権尊重の精神)
4. 心身の健康を保ち、元気に活動する子(心身の自己管理)

3 学校自己評価結果 A:十分達成している(そう思う) B:おおむね達成している。(ややそう思う)
C:どちらかという達成されていない。(あまりそう思わない。) D:ほとんど達成されていない。(そうは思わない。)

4 総合的な学校関係者評価

学校教育目標の「自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心をもち、未来をたくましく生きる東っ子の育成」は、これからの時代をいきていく児童に必要な資質である。学校の思いがこめられており、これからも思いやりのある児童の育成に努めていただきたい。
・あいさつの定着は学校、家庭、地域で連携して取り組んでいく重要な課題です。学校からもさらに発信をし、地域、家庭と連携し、あいさつの定着に努めていただきたい。
・今年度も昨年と同様、児童の学ぶ様子を拝見する機会がなくなるとも残念であったが、コロナ禍ではあったが、全教職員で児童の健康を第一、三密の回避にマスクの着用、消毒、換気の徹底に努められたことに感謝する。
・コロナ禍ということもあり、学校行事が制限される中、地域との関わりを持つことが難しかった。保護者の参加が制限される中ではあるが、学校評価をするものへの配慮がもう少しあれば、評価する際に非常にありがたい。
・新型コロナウイルス感染拡大のため幼小連携が実施できず残念であった。取戻後は、以前のように幼小交流を実施していただきたい。
・学校生活の中で、学習面だけでなく、様々な体験をし、児童が成長していったと感じる。教職員の熱心な指導で東っ子の雰囲気の良い学校である。
・目標の「元気に明るくとも学ぶ子」は、学校長はじめ教職員の思いが込められており、興味深く毎月小学校だよりを拝見した。コロナ禍の中大変だったと思うが、今後はさらに東っ子らしさの感じられる児童に育っていくことで、一人ひとりがいきいきと育っていくことを期待している。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	・学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。	A	○開かれた学校づくりのため、学校だよりやホームページを活用して行事や学習の様子を伝えている。学校だよりは、学校経営方針や教育に関する所感等を掲載し、自治会長、老人クラブ、民生委員児童委員、町議会議員の皆さんに郵送や児童を通じて配布し、各地域や団体で回覧していただいている。今後も、日々の教育活動について情報を発信し、家庭や地域との連携を深めていきたい。
	・学校行事の時期や内容は適切である。	A	○今年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から感染対策を施した上で行事を行った。授業参観は6月に感染症対策のため、教室の廊下側の窓をはずし地区別による2部制で実施。運動会は10月に全校生が参加し、保護者は3部制で開催した。学習発表会は低学年、中学年、高学年にわかれ3部制で実施した。学校行事は学校生活に潤いを与える重要な役割を担っている。今後も児童がより意欲的に学校生活に取り組めるように行事の時期や内容について改善策を考えていきたい。
	・清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また、定期的に施設・設備の点検をしている。	A	○給食後の限られた時間の中であるが、児童と教師が丁寧に清掃活動を行っており、児童には、校舎等を大切に使うよう呼び掛けている。施設・設備の安全点検は、教職員が毎月、校舎内外の設備等の点検を行い、不具合箇所については、早急に修理や部品交換を行い、安全確保に努めている。
	・いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができています。	B	○職員打ち合わせで、対応事業の指導経過や支援の必要な児童の情報を全職員で共有し、支援方法を検討している。困りごとアンケートの分析と事後指導の経過観察、Q-Uテストの分析、道徳の授業を通して、よりよい人間関係の構築に努めている。いじめが認知されたときは、迅速に組織対応し、その後の経過観察に努めている。不登校に関しては別室指導等を行うなど、個に応じた対応を行い、関係機関と連携を密にして取り組んでいる。
	・危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全について、点検・指導がされている。	B	○危機管理マニュアルを作成し、非常時の教職員の任務を随時確認している。今年度は避難訓練を年間3回実施。全校生での交通安全教室は実施できなかったが、自転車の乗り方、安全な登下校など、学級や全体指導を定期的に行っている。教員による下校指導を毎月定期的に行い、登下校児童の安全確保に努めている。今後も安全な登下校、交通事故防止や、危険箇所への対応、不審者対策等について、地域、家庭と連携し継続して取り組んでいく。
	・新型コロナウイルス感染症対策を講じて、学習活動等を行っている。	A	○手洗いの励行、マスクの着用、咳エチケット、黙食による給食、健康観察カードによる健康観察等を毎日実施している。また、教育活動を継続するため、感染レベルに応じて、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」(P50、51、52)に沿って学習を行った。
教育課程	・授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業を心がけている。	A	○今年度も全教員が2つの部会に分かれ、「食育」「キャリア教育」の各教科・領域の研究授業を行った。また、新学習指導要領にある、「主体的・対話的で深い学び」を充実させるため、各教科等の学習の中で思考ツールを効果的に活用する場面等についても研修を行った。6月に導入されたタブレット端末を効果的に活用した授業が展開できるように、各学年での取り組みの充実にも努めた。
	・評価(授業評価・学びの姿等)を通して、適切な指導をしている。	B	○新学習指導要領の評価の観点に即した評価規準や評価方法について、外部講師による研修を重ね、指導方法の工夫、改善に取り組んでいる。児童には努力した点や成長した内容については褒め、今後努力が必要な点については、具体的などのような学習行動が必要であるかを児童の発達段階に応じて説明し、励ましながら指導している。今後も、児童の学習意欲をさらに高められるよう研修を継続してきたい。
	・児童に家庭学習(宿題等)や学習準備等の習慣を身につけさせている。	A	○家庭学習や学習準備等の定着には、児童の意欲を高める指導が大切である。児童の学習意欲を高めるため、提出物の締め切りは守られているが、丁寧に学習に取り組んでいるかを確認し、声掛けを工夫し、家庭との連携を密にし、時間をかけて対応している。
	・体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。	B	○今年度もコロナ禍の影響で様々な制限を強いられしたが、体験的な学習は教育効果も高いため、可能な限りの感染症対策を行い、積極的に実施した。キャリア教育の一環であるふるさと先輩事業、読み聞かせ、あざの植樹など通して、充実した活動を行うことができた。今後も、体験活動の充実にも努めていきたい。
	・道徳の授業を大切に、内容の充実にも努めている。	A	○いじめ問題、情報モラル、新型コロナウイルス感染症や医療従事者に対する差別事象などについて、適切な教材を設定し授業を実施することができた。授業ごとに、児童の発言や振り返りを記録・蓄積し、児童の学習状況や成長の様子を継続的に把握することに努めている。また、評価の児童のため、児童の心の変化の読み取り方の改善にも取り組んだ。
	・読書活動を充実させている。	A	○冬休みには家族で読書に取り組み、全校生、保護者が感想を記入し図書だよりで紹介した。保護者も読み聞かせの時間を確保することで、子供とコミュニケーションがとれた等の意見が寄せられ、家庭での読書習慣の啓発に努めた。図書委員会では、放送での図書クイズを実施したり、各クラスへ本の紹介に行ったりした。今後も、家庭と連携をはかりながら読書活動の充実にも努めていきたい。

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや各種便り等で学校の情報を発信していただき、児童の様子や行事等を知ることができ感謝している。 ・学校ホームページの更新も早く、学校生活や行事等がすぐ確認できよかった。 ・参観日がなかったので、授業風景を動画でみることでできたらと思った。 ・コロナ禍での感染拡大防止対策を考えて行事を実施したり、毎日の消毒作業等に感謝している。児童を守れていると思う。 ・学校だよりをあらゆる団体に配布いただき、感謝している。特に自治会に配布いただいているものは、隣保に回覧され、個々の家庭で小学校の様子を垣間見ることができ良いことだと思う。 ・授業参観は、地区別の二部制で行われるようになって2年になるが、これはコロナが収束した後も、この状態で実施していただけたらよいのではないかと。二部に分かれることで、授業の様子もよく見えるので、学習に支障をきたすこともなく、一石二鳥である。その分教師の負担は増加することになるが、そこは、普段の学習の様子を公開していただければと思う。 ・先生方が毎月定期的な下校指導をしてくださっていることは本当にありがたいと思う。 ・いじめ、不登校問題だけでなく、虐待や家庭内暴力等の相談が子供たちから、発信しやすい環境を学校や地域で作ってほしい。 ・地域の当番制で下校に保護者が迎えることが、低学年下校が特に危ないと感じた保護者の声が多かった。その都度注意しているが、言うことを聞かない児童もいるため、家庭でも登下校について話をしてもらう必要があると感じた。 ・子供は友達から悪口を言われたときに、担任に相談したら迅速な対応をしてくれた。いじめアンケートを定期的に行っているが、子供は忘れることもあるので、嫌なことがあったとき、連絡帳に書くことも方法の一つであると児童に伝えるのもいいと思う。 ・ホームページに児童のブログ欄を作り、高学年が学校内や地域の取材、児童からの提案、動画の制作等楽しくできそうな内容でチャレンジするのはどうか。 ・コロナ禍で計画通り学校運営が行えなかったのではないかと。これからの新しい取り組み方を考えた行事や参観の在り方を考えていなければならないと思う。親子を交えた、一体感のある行事は、児童も望んでいることと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な体験活動は会得することがたくさんあると思う。今後も計画的に実施していただきたい。 ・いじめ、差別など頭では善悪の判断はできても行動が伴わないことが多いと思う。自分の言動を振り返り、考える場や時間を作っていただきたい。 ・道徳の授業では、授業ごとの発言や振り返りの記録、成長の様子等の継続的な把握をすることで、評価や心の文化の読み取りを返していること、教育の効果が期待できる。 ・道徳教育に力を入れてほしい。特に最近では、LGBTQ等を含めた、他者理解をする必要があると思う。 ・タブレット端末の使い方の慣れがすぐ早くで感心している。宿題もタブレット端末を活用しはかどっている。今後もさらに発展した活用を期待する。 ・冬休みの家庭読書は読み聞かせの時間を確保でき親子ともにとてもよかった。 ・宿題、学習内容等は2クラスでできるだけ同じ内容の学習が望ましいと思う。 ・担任が欠席時、児童のタブレット端末に担任からメッセージ送信があり児童はとても安心していた。子供たちのことを考えていただき感謝している。お手数ではあるが、そのような気遣いのできる教師が増えることを願っている。 ・天満東小学校、稲美町の教育の特徴が欲しい。ITに強い、英語教育が充実している、運動またはサッカー等の取組、コーラス等の活動が行っている等。 ・体験学習はさらに、いろいろなテーマで行うとよい。 ・何が正しいことか、相手の立場にたって考えられる心を持った東っ子に育ててほしい。 ・毎日少しの時間でも読書をする習慣づけができるようにするとよい。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
課題教育	・生命の大切さ、共に生きる豊かな心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して、実践的な力を培っている。	B	○道徳科を中心に各教科、行事等、教育活動全体を通して、命の大切さや人と人との豊かなつながり、人権尊重の心を育てている。今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、地域と連携した行事等が中止となってしまった。保護者や地域の方とともに体験する行事は、児童にとっては貴重な機会であるので、来年度は感染防止対策を講じて、地域と連携した行事が実施できる方法を考えていきたい。
	・環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。	A	○環境体験学習では、3年生は天満大池でのアサザ保護活動に参加。5年生の自然学校は日程を変更し11月27日から4泊5日でハチ高原の自然の中で体験活動を行った。雪の中での体験活動となったが、大きな学びのあった5日間となった。郷土の自然を大切にす心や、自然の中で友達と協力しながらの体験活動は、児童にとっては貴重な体験であるので、来年度も各学年に応じて学習内容を工夫しながら進めていきたい。
	・計画的に避難訓練等を実施している。	A	○4月に災害対応マニュアルを全教職員で見直しを行い、今年度は、5月火災の避難訓練、1月地震の避難訓練、2月不審者対応避難訓練を実施した。訓練後は、Googleフォームを使った振り返りアンケートを実施し、結果を学校だよりで周知した。アンケート記述欄では、訓練の重要性について触れている児童が多く見られた。自分の命を自分で守ることを意識させるため、今後は、教室以外や休み時間で訓練の充実にも努めていきたい。
	・外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。	B	○昨年度から英語専科が導入され、専科、ALTが連携して授業を進めている。中学年では、「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」を中心に外国語に慣れ親しみ、高学年では、「読むこと」「書くこと」を加えてコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成に努めている。今後も児童が意欲的にコミュニケーションを行えるように継続して取り組んでいきたい。
努力目標	・学校は授業や体験学習を通して、自ら学ぶ意欲を持って、学ぼうとする児童を育てようとしている。	A	○学校教育目標に「自ら学ぶ意欲をもち」と掲げ、毎時間の授業のはじめにその時間の目標を提示し、終わりには振り返りを行うことにより、目標が達成できたかどうか各自で確認している。6月に導入されたタブレット端末を積極的に活用しながら、「わかった できた」という学びの充実を味わわせる授業づくりにも努めている。
	・学校は、学校や家庭地域で自分から進んであいさつできる児童を育てようとしている。	B	○「めざせあいさつ日本一」を合言葉に、自らから進んであいさつのできる児童の育成に努めている。登校時、下校時、校内では気持ちのよいあいさつができる児童が増えているが、地域でのあいさつができないという声もいただいでおり、学校、家庭、地域が連携して今後も取り組んでいきたい。
	・学校は友だちと決まりを守り、仲良く協力できる子を育てようとしている。	A	○児童は「東つ子のやくそく」を守り、学校生活を送ることができている。児童同士の小さなトラブル等には、担任がその都度、事実確認、必要に応じて謝罪をし事後経過観察を行っている。関係児童の保護者へは、詳細を連絡し、事案によっては、直接保護者に合い、児童への声掛けと見守りを依頼している。
	・学校は、体育・保健学習や食育を通して、自分の体や心を大切にしようとする心を育てようとしている。	A	○学校全体で食育に取り組み、特に食に関する自己管理能力のカリキュラムを本校独自で作成し、持続可能な食育に取り組んだ。3年生では企業と連携し、地域の食材を使ったメニューづくりに取り組み、完成した給食メニューを実際に全校生に提供することができた。体育では授業だけでなく、スポーツテスト、運動会、駅け足チャレンジ等を行うことで児童が興味を持って練習し、体力向上につながるように努めている。感染症対策を通して、自分の健康を自分で守る力を身につけさせるよう指導している。
	・学校は、話したり書いたりすることを通して、自分の思いを相手にしっかりと伝えられる子を育てようとしている。	A	○各教科の学習において、児童が自分の思いや意見をまとめ、恥ずかしがらずにグループで意見を交換したり、みんなの前で学習成果を発表したりする機会を多く設定している。このような取り組みを通して、声の大きさや話すスピード、言葉の選定に注意し発表できる児童が増えてきている。

自己評価における特記事項

・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発令により児童にとっては心身ともに大きな負担となった1年間であったが、保護者や地域も方々のご理解、ご協力のおかげで、コロナ禍での教育活動を進めることができた。児童の小さな変化にも目を配り、児童が抱えるストレスや不安に適切に対処して、心身の健康を保つことをさらに支援していきたい。

・学校、家庭、地域がお互いに連携、協働して子どもたちの教育に取り組んでいくため、家庭との連携を密にし、家庭教育に関する必要な情報の提供を積極的に行っていく。

・地域の行事への参加、PTCA活動の充実等地域に根ざした伝統文化や芸術文化にふれる機会の充実を通して、地域を大切に思う心(ふるさと意識)の醸成に努める。

・登校時の「おはようございます」校内で教職員や来校者への「こんにちは」、下校時の「さようなら」など、その場に適したあいさつが校内ではきているが、マスク着用で、大きな声を控えるというコロナ対策により、最近はいいさつの声が小さい、地域ではあいさつができていないとお声もいただいている。今後は「いつでも、どこでも、だれにでも、自分から」あいさつのできる児童の育成にむけ、家庭、地域と連携しながらと努めていきたい。

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
<ul style="list-style-type: none"> ・5年生の自然学校は、コロナが落ち着いている中、実施できたことはこの時期でないと経験できないことを学べ、大きな収穫となったことと思う。 ・タブレットをいろいろな場面で活用して児童が慣れ親しめるように努めている。今後休校や学級閉鎖になった場合に向けて、学校と家庭をつないで、オンライン授業が、実際にできるか低学年も含めて長期休業中等に試していただきたい。 ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、3年生のアサザ保護活動、5年生の自然学校、運動会、学習発表会等の実施の有無が心配されたが無事実施でき良かった。開催方法を工夫していただいた学校に感謝している。 ・地域と連携したPTCAフェスティバルが残念ながら実施できなかったが、コロナ禍の状況では仕方がないと思う。しかし、このような状況であっても、何かしらの形で地域と連携した行事を開催できるように検討していただきたい。 ・自然学校、修学旅行が実施できたことはよかった。様々な体験をし児童は成長できたと思う。 ・年始にひい爺が亡くなったが、ひ孫が老いていくひい爺の様子や亡くなった時から自宅での期後の義、湯灌、通夜、葬儀等に接しながら悲しさを命の大切さを考えることができたのではないかな。 ・避難訓練は積極的に取り組んでいただきたい。 ・孫とゲームをしているとき英語でカウントする発音がとても上手で、学校の成果だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用では、理解が十分でない場合「わからない」を訴えることができるように支援やサポートの充実をお願いしたい。 ・あいさつは家庭で日常的に声を掛け合う習慣をつけることが大切で、地域でも大人から声をかけるよう心がけたいと思う。 ・トラブル対応では、親子ともに相手の気持ちを想像する力、反省する心、お互い様という広い心をもてるようにお願いしたい。 ・きちんとあいさつのできる児童も多く、基本的な生活習慣が身についていると思う。 ・タブレットを使って調べたり、考えをまとめたり、発表するときのことを考えて、自分たちでプレゼンするなど、これからの将来にとっても大切でよい学習だと思う。 ・あいさつは子供たちだけでなく、地域や町全体で取り組んでいく必要がある。登校時に会話があいさつのできる児童は少ない。 ・大きくなった将来の夢を語りあえることは、お互いにとってよいことだと思う。そして、夢がなかうように努力できるように育てほしい。 ・3年生が企業と共同して行った、稲葉の食材を使ったハンバーグの開発の授業は、食育、栄養等を考えるとても充実した授業であった。今後もこのような授業が継続されることを願う。

項目以外での来年度の課題や具体的改善方法

・GIGAスクール構想により導入されたタブレット端末の効果的な活用法について、今後も引き続き教職員で検討、研修を進める。今後導入が予想されるデジタル教材を活用した新しい学びについても研究、研修に努める。

・今年度はコロナ禍によりオープンスクール等が実施できず、児童の学びの様子を保護者や地域の方に見ていただく機会を十分持つことができなかった。信頼される開かれた学校づくりのため今後は、保護者や地域の方と情報を正しく共有することが大切であり、これまで以上にPTAや各種団体との連絡・連携に努めていく。

・今年度の全国学力・学習状況調査では、反復練習により計算はできるが、演算決定の根拠が曖昧であったり、計算の意味や仕方を考えたりするなどの基本的な概念の定着に課題があった。そのために、来年度は学習指導要領で算数の目標とされている「数学的な見方・考え方」を豊かにする授業づくりを研究し、基本的な概念を習得し、算数独自の感覚を児童に養うことができるよう研究・研修に努める。